＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉔ー更にまさった契約の仲保者』　武田　真治　牧師

レビ記　４：１～１２　ヘブライ書　７：２５～８：６

今日の箇所の7章26~28節は昔から、イエス様についてのとても重要な言葉が記されていると言われています。特に26節は“讃美歌”と言っても良い箇所であろうと想定されています。イギリスの解説者モッファットはここを名付けて“コンクルーディング・ラプソディー（＝結論的狂詩曲）”と呼んでいます。イエス様への思いがほとばしっている賛歌だと。2006年に出版された注解書でも、ここは“クレッシェンド（＝最高潮）”と名付けられています。この手紙の著者が今迄語って来た結句として「このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとって必要な方なのです。」とイエス様が与えられた喜びを讃美しているのです！

上記の言葉の中で「聖であり、罪なく、汚れなく」の三つは神様のみ前に出ることが出来る条件を表しています。４番目の「罪人から離され」は、イエス様が人々のただ中に入られ共に生きられたにもかかわらず、人の罪に染まることはなく、かえってそれらの罪をすべて自ら贖われたことを指し、今は最も高い「天」に座しておられ、今も私たちを導いていてくださる方こそ、まことの「大祭司」であると！

そして次に「この方は、他の大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自分を献げることによって、成し遂げられたからです。」と続いています。ここでの「他の大祭司たち」とは、旧約聖書に登場するエルサレム神殿に仕えた大祭司たちのことを指しているのですが、宗教改革を起こしたルターは、この箇所を通して、当時のカトリック教会の司祭やローマ法王たちの問題点に気付かされたのでした。

それは、カトリックのミサでのぶどう酒とパンは、実際のイエス様が十字架の上で流された血と裂かれた体と考えて、今もイエス様が罪の赦しを行っておられると見做し、毎日ミサを献げていることは、このヘブライ書にあるようにイエス様とは別の「他の大祭司たち」の為している“業”に陥っているのではないのかと。それに対して、私たちの“罪の贖い”は、もはやイエス様の十字架上で「ただ一度、御自分を献げることによって、成し遂げられた」のではないのか。私たちにとってはイエス様こそが「まことの大祭司」であって、その他の神様と人間の間に立つような「他の大祭司（＝ローマ法王等）」は必要ないのではと気付かされた箇所となったのでした。そして、それまでのカトリックの教義（＝化体説）そのものを問い直し、ミサから聖餐式へと、そのあり方も持ち方も大きく変革していくことへと繋がったのでした。私たちの信仰もこの点でまた思いを新たにさせて頂きたい！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．9月14日（水）20：00
　　Ⅱ．9月15日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　オリブの葉編集委員会を覚えて
担 当 者：　（水）吉澤　（木）金刺
祈 る 人：　松下さん　　松田さん
ハンナの会；　9月13日（火）10：30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男　22　女　54　計　76
祈祷会　Ⅰ．男6 女2 計8　Ⅱ．男1 女9 計10
日曜学校　　休校

【次週礼拝】　９月　１８日（日）

聖　書：　レビ記　１６：３２～３４
　　ヘブライ人への手紙　９：１～１４
説　教：　「ヘブライ㉖ ―天の聖所と幕屋」
　　武田 真治 牧師
讃美歌：　５５(1)、３２(1)、５１６(1と2と3)、
　　４３６（1と2)、２９(1)

【次週当番表】

司式:相浦長老　奏楽:中村 礼拝:茨木長老
献金：奈良　新元　受付：飯島　吉岡
会堂準備：小杉 富澤 長田 橋本
　　北條
看板：曾我　週報：吉岡　お花：羽倉

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・オリブの葉編集委員会・日曜学校教師会
　　・幼稚園理事会・聖歌隊練習

６３－３７

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　９月　１１日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/